



(ひかみちゃん)

ほだかの里だより



(ほだかくん)

—大高歴史の会会報—第51号

令和5年(2023) 10月発行(秋号)

「ひかみちゃん」「ほだかくん」は、大高在住のイラストレーター大橋由起子さん作成の「大高歴史の会」のキャラクターです。大高は、昔々、「火上(七か)の里」、または、「火高(杓*か)の里」と呼ばれていました。

第51号 目 次

歴史へのひととき 知多半島に知多八十八カ所霊場が	大高歴史の会の歩み・大高の行事催事	……	P 4
開創 …… 早川善夫 P1~2	令和5年1月~9月までの散策 …… 深谷 篤	…	P 5
大高のできごとあれこれ……… P 3	大高緑地の四季Ⅲ 秋の花木 …… 山口初宏	…	P 6

歴史へのひととき 知多半島に知多八十八カ所霊場が開創

早川善夫

知多半島に知多四国霊場が開かれたのは知多四国霊場会の資料によれば今から 210 年程前の 1809 年(文化 6)で平成 30 年は知多四国開創 210 年です。夢で弘法大師(空海)のお告げを受けた知多市古見の妙楽寺十三世亮山阿闍梨が霊場づくりを始め 15 年かけて四国への巡拝を重ねられ岡戸半蔵、武田安兵衛両行者の協力を得て知多四国霊場が開創されました。

今からおおよそ 1200 年前、弘法大師は平安前期の 814 年(弘仁 5)に諸国行脚の修行の途中に三河より船で知多半島の東岸を南下して南知多の大井聖崎から上陸したとされる。

同地医王寺、山海岩屋寺に御留錫*1、護摩修法されて、のち北上されて野間から伊勢路に向ったと伝えられている。(御上陸、御巡錫*2)という、また、篠栗(福岡県)と小豆島(香川県)と並び日本三大新四国霊場とのことです。(中日新聞 2021 年 9 月 15 日(水)夕刊記事より)

弘法大師「空海」と遣唐使船

「続日本後期」によると空海は東大寺戒壇院で具足戒*3を受け、正式に僧となった。803 年、30 歳のことである。(804 年 30 歳の説もある。)

桓武天皇から入唐の勅命が下り、804 年 7 月空海を乗せた遣唐使船は肥前田浦(現在の長崎県)を出帆、唐の明州を目指しました。しかし間もなく船は嵐に遭遇。船は約 1 ヶ月海を漂い、同年 8 月福州の赤岸鎮に漂着したとのこと。

4 隻の船で肥前田浦(長崎県)を出発した空海は遣唐大師の藤原葛野麻呂らとともに第 1 船に乗り唐へ渡った。(のちに天台宗を開いた最澄は第 2 船で出発)

当時の遣唐使船は全長 30m(最大幅約 9m) 150 トンくらいの大さきで、おおよそ 13m の帆柱が 2 本あったが無風するときには櫓で漕いで進むよう造られていた。また、1 隻に 140~150 名が乗船していたと考えられている。

令和 5 年(2023)は弘法大師空海さまのご誕生されて 1250 年の記念の年にあたります。

弘法大師の年表

- 774 年(宝亀 5) 讃岐国(香川県)に生まれる
- 804 年(延暦 23) 遣唐使船で入唐(中国に留学)
- 805 年(延暦 24) 青龍寺恵果阿闍梨より密教の奥義を授かる
- 806 年(大同元) 帰朝(日本に帰る)

816年(弘仁7)高野山を賜る。高野山 金剛峰
寺開創

- * 1 (錫杖を留める意から) 行脚中の僧が一時、他の寺院に滞在すること。
- * 2 (錫杖(しゃくじょう)をたずさえて巡行する意) 僧が各地をめくり歩いて教えをひろめること。
- * 3 仏教で出家した男女の修行者(此丘、此丘尼)が遵守すべき戒のこと。

知多新四国巡拝ドライブ地図(知多新四国霊場会)の案内書には「鈴の音の続く菜の畠知多遍路」と先人が読んで居られます。時の推移と共に巡拝の方法も様々と記しています。

次に大高にある知多四国霊場の八十七番札所の長寿寺と東海市荒尾町にある加家の八十六番札所の観音寺を記載します。

鷲津山長寿寺(臨済宗永源寺派) 名古屋市緑区大高
町字鷲津山

御本尊 阿弥陀如来
開基 長寿院殿 橘氏源操尼公
開山 石梯道雲(開派開山)

始め真言宗に属し長佑寺と称し桶狭間の戦いで焼けたほか創建年代などは不詳。江戸時代になって尾張藩の家老志水甲斐忠時(宗秀)が祖母長寿院元操尼遺命により延宝8年(1680)尾張藩主光友より援助をうけ天和2年(1682)一大伽藍を建立。越伝を招聘し中興開山として宗派を黄檗宗に改宗、祖母の法名に因み長寿寺と改めた。



その後、故合って元禄4年(1691)石梯道雲の代に臨済宗永源寺派になった。現在は昭和54年に全伽藍が近代建築に造り変えられ趣を一変させている。文化文政(1801~1829)年の頃、知多の新四国八十八ヶ所の霊場が設けられ、弘法堂があり、その他、高蔵坊狐のいわれの「高蔵坊稻荷」があります。寺の前の道路は大浜街道(県道50号名古屋碧南線)で大浜、高浜の三河湾岸部から名古屋方面を結んだ県道です。

大悲山観音寺(真言宗智山派) 東海市荒尾町仏供田
御本尊 聖観世音菩薩
開基 不詳
開山 昌増法印(中興)



昔は境内から海浜が眺められた。後柏原天皇の勅願寺や豊臣秀頼の祈願寺となった歴史もある。また幕末の儒者細井平洲は伯父にあたる義観法印というお坊さんから、ここで学び勉学に励んだ時期もあった。毎年8月10日、青竹の先に下がった提灯をもぎ取る「提灯祭り」が行われることで有名。

大高から荒尾方面(江戸時代は平島村)へ行くには西口地藏尊横の道しるべ表示には「左ひらしま右よこすか」と記載されている様に、ひらしまに行く道路は山沿いで三ツ矢までいくことができたと思われます。(完)

<参考資料 知多四国八十八ヶ所めぐり、空海高野山の教科書>

<大高のできごと あれこれ>

[令和5年(2023)7月~9月]

「地蔵盆」(7月21日)(金)・

20日は氷上姉子神社脇の「平ノ池地蔵菩薩」
24日は折戸の「新町西口地蔵尊」に於いて地蔵盆の催しがあり薬師寺住職による読経に続き地元奉賛関係者の焼香が行われました。



「龍宮社例祭」(8月1日:旧暦6月15日)

同日夜、高見町内の主催により字中川に鎮座する同社(住吉社)にて執り行われました。

「納涼夏祭り」(7月30日)(日)夜

従来の盆踊り大会が納涼夏祭りとなしと内容を変えて大高北小学校グラウンドにて行われました。

当日は山口晃司緑区観光大使の三味線演奏とOriginal Swingy Guys Jazz Orchestraによるポピュラー曲演奏に加え、テントでの従前通りの学区各地区や大高地域観光推進協議会のグッズ販売等。

4年振りの大高学区大高北学区共同主催の行事であり会場は大勢の参加者で溢れ大盛況でした。



ジャズオーケストラ演奏

「敬老祝賀会」(9月21日)(月)

こちらも4年振りに敬老祝賀会が大高小学校体育館にて行われた。大高・大高北学区の主催で75歳以上の高齢者を招き、傘寿の方々には特製座布団がプレゼントされ、余興は津軽三味線とジャズオーケストラ演奏が披露されました。

「神明社例祭」(9月27日)(日)

午前11時から丸根の下村神明社で下村講の人々により“大ぼたもち”を供えて行われた。今年には神前に穴を掘り、薪を炊いての神事であった。



下村神明社

当日13時過ぎからは田中神明社にて町内会代表者参列による神事後、4年振りに子供相撲大会も奉納された。コロナによる3年間ブランクの影響が大きすぎて参加者も限定的であった。



田中神明社

「大高^{ぬいぼ}斎田拔穂祭」(9月28日)(木)

初秋と思えない真夏並みの暑さの下、11時から収穫をお祝いする拔穂祭が行われました。

神事後、斎田に、たわわに実った稲穂を収穫する儀式も古式ゆかしく行われました。

当日は大高地域観光推進協議会主催の散策会も実施され、例年通りの姿に戻りました。



「八幡社提灯祭り」9月28日(木)

夕方、川向の八幡社から辻の秋葉社への往復ちょうちん行列があり、その後、八幡社にて神事が行われました。

<大高歴史の会のあゆみ>
[令和5年(2023)7月~9月]

<例会> [第2・第4月曜日9:30~12:00 例会(勉強会)を八幡社参集所で開催]

- 第302回(7/10) ほだかの里だより第15号
P8 氷上姉子神社の新史跡 [浜鳥居跡・浜宮跡・沓脱島跡]
P9 <大高のできごと あれこれ> [平成26年(2014)7月-9月]
P10 <大高歴史の会のあゆみ> [平成26年(2014)7-9月]
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて [第15回] 城山八幡社の常夜灯と手洗い鉢
ナゴヤ歴史探検 P76~77 名古屋近代化の礎を築いた11人の偉人たち 8-11
- 第303回(7/24) ほだかの里だより第15号
P4~7 壺帖の画集から
P12 まちかど案内板の紹介 [第11回 高蔵坊稲荷]
- 第304回(8/28) ナゴヤ歴史探検 P78~79 デモクラシーの広がり
奉安殿点検・内部調査
- 第305回(9/11) ほだかの里だより第16号
P1~3 <おおだか・なつかしのあの辺り> (続桶狭間道編)
P4~6 壺体の置物から
- 第306回(9/25) ほだかの里だより第16号
P7 500年前へのタイムスリップ [桶狭間の戦い直前の大高を映像化]
P8 <大高のできごと あれこれ> [平成26年(2014)10-12月]
P9 <大高歴史の会のあゆみ> [平成26年(2014)10-12月]
P10 平成26年年間大高散策ガイド実績
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて [第16回] 大高城跡の古城園標柱
P12 まちかど案内板の紹介 [第12回 久野広成歌碑]

<その他の活動> [会のあれこれ情報]

- 「会報第50号(令和5年夏号)発行」(7月7日)
約670部、印刷、於 緑区社会福祉協議会。丁合は7月10日に実施
「大高台わいわいサロン歴史講話」(9月15日) 講師 山口代表 聴講10数名
「大高小学校4年生大高の歴史講話「徳川家康と大高」(9月20日) 講師 山口代表 聴講100余名

<ガイド実績> 史跡・町並み散策ガイド依頼受付窓口: 深谷篤 090-8952-8610

- 7月6日(木) 大高城跡 シルバーカレッジ 14名 (深、林田)
7月28日(金) 大高城跡散策会 シルバーカレッジ 8名 (深、林田)
7月31日(月) 鷲津砦跡、丸根砦跡、大高城跡散策会 2名 (大磯)
9月28日(木) 抜穂祭見学会 寝覚めの里、氷上姉子神社 9名 (深)

ガイド実績 (7-9月) 4件 33名

大高の行事予定(2023年10月~2024年1月)

- 10月1日(日)14:00~大高祭り 於 氷上姉子神社
10月28日(土)10:00~みどり・シティ・フェスティバル 於 大高緑地
11月18・19日(土・日)10:00~15:00 大高地域コミセン祭り
11月19日(日)10:00~サムライ・ニンジャ フェスティバル2023 於 大高緑地
11月23日(木)9:30~大高学区ふれあいうオーキング
12月31日(日)~1月1日(月)各寺社越年行事(氷上姉子神社、八幡社、石神白龍社など)
1月8日(日)10:00~成人式(大高中学校) 大高3学区合同

令和5年 1月～9月までの散策

大高歴史の会・・・大高歴史 大高観推協・・・大高地域観光推進協議会
MRF・・・緑区ルネッサンスフォーラム

	実施月日	申込み先	散策コース	参加者数
1	1月15日(日)	大高歴史	鷺津砦跡・丸根砦跡・大高城跡	2名
2	2月26日(日)	M R F	大高城跡	105
3	3月5日(日)	大高歴史	大高城跡・酒蔵見学	33
4	3月11日(土)	大高歴史	鷺津砦跡・丸根砦跡・大高城跡	2
5	3月12日(日)	大高歴史	大高城跡・鷺津砦跡・丸根砦跡	4
6	3月25日(土)	M R F	大高城跡	8
7	3月28日(火)	大高歴史	大高城跡・酒蔵見学	4
8	4月30日(日)	大高歴史	鷺津砦跡・丸根砦跡・大高城跡	2
9	5月2日(火)	大高歴史	大高城跡	11
10	5月6日(土)	大高観推協	氷上姉子神社 頭人祭	4
11	5月10日(水)	大高歴史	大高城跡	5
12	5月11日(木)	M R F	大高城跡	9
13	5月19日(金)	大高歴史	大高城跡	12
14	5月26日(金)	大高歴史	氷上姉子神社・元宮・寝覚の里	6
15	6月6日(火)	大高歴史	大高城跡	11
16	6月9日(金)	大高歴史	大高城跡	12
17	6月13日(火)	M R F	大高城跡	20
18	6月25日(日)	M R F	大高斎田お田植祭	18
19	7月6日(木)	大高歴史	大高城跡	14
20	7月28日(金)	大高歴史	大高城跡	8
21	7月31日(月)	大高歴史	鷺津砦跡・丸根砦跡・大高城跡	2
22	9月28日(木)	大高観推協	氷上姉子神社大高斎田 抜穂祭	9

計

301名

大高緑地の四季Ⅲ [秋の花木]

山口初宏

緑地の秋は^{しらたまほしくさ}白玉星草から始まる。9月になると花木園、湿地帯の一角に小さな丸型の花を咲かせる。

あたり一面に広がる白い花は残暑厳しい、この時期には貴重な美しさを誇っている。愛知、岐阜、三重、静岡の東海地方のみに咲く花で絶滅危惧種に指定されている



白玉星草

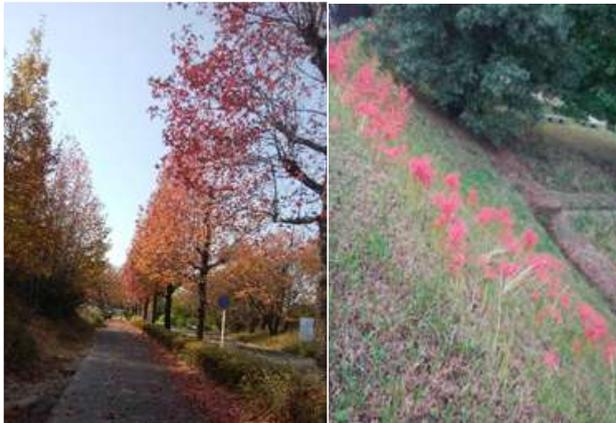
また、公園のあちこちには萩が咲いている。清楚なピンク色の花で趣がある。



萩

園内外周路にはモミジバフウの木が街路樹として植えられていて鮮やかな赤橙の紅葉が見られる。この大木並木は壮大で見ごたえがある。

琵琶ヶ池や岩芝生広場の土手には彼岸花もたくさん咲いている。



モミジバフウ

彼岸花

岩芝生広場の最上部や岩児童園、健康広場の脇には真黄色に染まったイチヨウの木が彩りを添える。その中に^{ぎんなん}銀杏の実をつけるものがあり落ちた実を拾う楽しみもある。



イチヨウ（岩芝生広場）

このほかに大高緑地には、方々にイロハモミジが赤く輝く等、晩秋の紅葉を楽しむ見どころがいっぱいである。適度な起伏に富み、健康増進を兼ねての散歩場所としても魅力的である。

**説明ガイドさん & 新規会員
募集中です！**

連絡先（052）623-2307

大高の歴史を学び伝える

大高歴史の会 会報

第50号 2023年7月

[平成21年(2009)4月発足]

連絡先（代表）：山口 初宏

〒459-8001

名古屋市緑区大高町字天神44

052-623-2307

散策関係 担当：深谷 篤

090-8952-8610

史料関係：丸山 忠之

052-621-7376

会報は年4回発行の予定です。

（冬1月、春4月、夏7月、秋10月）

会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います

（本号の編集は山口初宏が担当しました）